

望月衣塑子氏講演会



第2次世界大戦で政府に協力し、軍事研究に従った日本の研究者たちは、戦後は人類の平和のために研究することを宣言してきました。しかし2015年、防衛装備庁による「安全保障技術研究推進制度」が作られ、軍事費による研究が大学で行えるようになり、研究者たちの意見は揺れています。大学が企業や軍と手を結び軍事研究を行うことに私たちJSAは反対です。大学・企業と軍事研究の関係を考えるために、東京新聞の記者・望月衣塑子氏をお招きし、講演会を開催します。皆さん、是非、参加をしてください。お待ちしております。

●講師プロフィール

1975年東京生まれ。東京新聞社会部記者。慶應義塾大学法学部卒業後、東京・中日新聞に入社。千葉、埼玉などの各県警、東京地検特捜部で事件中心に取材。現在、社会部記者として武器輸出、軍学共同をテーマに取材。雑誌『世界』に寄稿「国策化する武器輸出」(2016年6月)、『季論21』で鼎談「軍学共同」と科学者の責任」(2017年春号)。『武器輸出と日本企業』(角川新書、2016年7月)、『武器輸出大国ニッポンでいいのか』(あけび書房・共著、2016年9月)を出版。

武器輸出解禁、進む軍産複合体 ～取り込まれる大学・企業・研究者達～

◎日時：8月3日(木)

◎開演：13:30-16:15

◎会場：山梨県立図書館 2階
多目的ホール

JR甲府駅北口徒歩2分

当日参加自由・無料

主催：日本科学者会議(JSA)山梨支部

連絡先：090-4634-1862(高橋)



望月衣塑子氏 講演
武器輸出解禁、進む軍産複合体
～取り込まれる大学・企業・研究者たち～

2014年4月、第2次安倍政権は、武器輸出を原則禁止する武器輸出三原則を撤廃し、武器輸出を原則解禁とする、防衛装備移転三原則をわずか21人の閣僚によって閣議決定しました。以降、武器輸出を巡る日本の現状と、それに伴う軍学共同について取材をしてみました。講演では、武器輸出解禁の流れの中で、政府・防衛省が積極的に取り組みはじめた助成金制度「安全保障技術研究推進制度」について、政府が進める数々の軍学共同路線と、その中で翻弄される大学や企業、研究者達の声、第二次大戦下で軍と共に軍事研究に勤しんだ科学者の歴史、日本が現在、模倣しようとしている米国での大学と国防総省との関係性、日本の大学に流れ込む米軍資金、広がりつつある反軍学共同の動きについてお話をしていきたいと思えます。

●プログラム

- 13:15 開場
- 13:30 開催趣旨
「加速する大学改革と軍学共同」
竹内智さん(山梨大学教授)
- 14:00 望月さん講演
「武器輸出解禁、進む軍産複合体
—取り込まれる大学・企業・研究者たち—
- 15:30 質疑・討論
- 16:15 終了

●日本学術会議の「声明」

この「安全保障技術研究推進制度」について、日本を代表する研究者コミュニティの日本学術会議は、1年近い議論の結果として、「軍事的安全保障に関する声明」を今年の3月に発表しました。この「声明」は、「戦争を目的とする科学の研究は絶対に行わない」とする1950年の声明、「軍事研究は絶対行わない」とする1967年の声明を継承することを確認しています。その上で、大学・研究機関に「研究の入り口」で研究資金の出所等に関する慎重な判断をするように求めています。

●「安全保障技術研究推進制度」の概要

日本の軍事研究は、防衛省技術研究本部や防衛大学校の研究者を中心に行われてきました。その防衛省が創設したのが「安全保障技術研究推進制度」です。新しい兵器開発に役立つ基礎研究を実施してくれる大学や企業に研究資金を提供する仕組みで、2015年度に総額3億円ではじまりました。初年度は109件の応募(大学等58件、公的研究機関22件、企業等29件)があり、9件(大学4件、公的研究機関3件、民間企業2件)が採択。採択されると、年間3,000万円を上限に3年間は資金が提供されます。2016年度は、新たに10件が採択され、継続を含めて約6億円が支出されました。今年度は5年間で最大20億円の研究資金が支給される新しいタイプが加わり、予算総額は110億円に増額されました。採択結果は8月に公表される予定です。

●日本科学者会議(JSA)の活動

JSAは、1965年の創立以来、一貫して日本の科学の自主的・総合的な発展を願い、科学者として社会的責任を果たすため、核兵器廃絶を含む平和・軍縮の課題、環境を保全し人間のいのちとくらしを守る課題、大学の自治を守り科学者の権利・地位を確立する課題など、さまざまな活動を進めてきました。この5月28日に開催した第48回定期大会では、「防衛省による安全保障技術研究推進制度」に反対し、戦争のための研究協力は断固拒否する」ことを決議しました。

今回の防衛省の研究資金制度は、研究費不足に頭を抱える研究者にとって魅力がないといえウソになります。JSA山梨支部では、軍事研究と大学の関係の問題を市民のみならずと一緒と考えていくために、今回の講演会を企画しました。